

第3章 物質別の推移

大気への排出量が6年間を通して上位3物質であるトルエン、キシレン及び塩化メチレンについて、平成20年度上位5業種の6年間の推移について解析します。

(1) トルエンの大気への排出量の推移

平成20年度のトルエンの大気への排出量は82,000トンで、6年間で37,000トン(▲31%)減少しています。

図10に平成20年度における大気への排出量上位5業種の6年間の推移を示します。平成20年度の上位5業種の合計は56,000トンで、大気への排出量合計の68%を占めています。平成20年度の主要な上位業種はプラスチック製品製造業(トルエンの大気への排出量合計に占める割合20%)、輸送用機械器具製造業(同16%)及び出版・印刷・同関連産業(同15%)となっています。

上位5業種は6年間を通して減少傾向が見られ、特にパルプ・紙・紙加工品製造業の6,800トン(▲47%)、輸送用機械器具製造業の4,900トン(▲28%)及び出版・印刷・同関連産業の5,000トン(▲28%)と大幅な減少が目立っています。これは揮発性有機化合物(VOC)の排出削減の取り組みの成果が反映されたためと考えられます。また、平成20年度において5業種ともに大幅に減少しており、平成19年度と比べるとパルプ・紙・紙加工品製造業は22%、プラスチック製品製造業は17%の減少となっています。これは事業者による継続的な排出量削減の取り組みに加え、経済情勢が反映しているものと思われます。

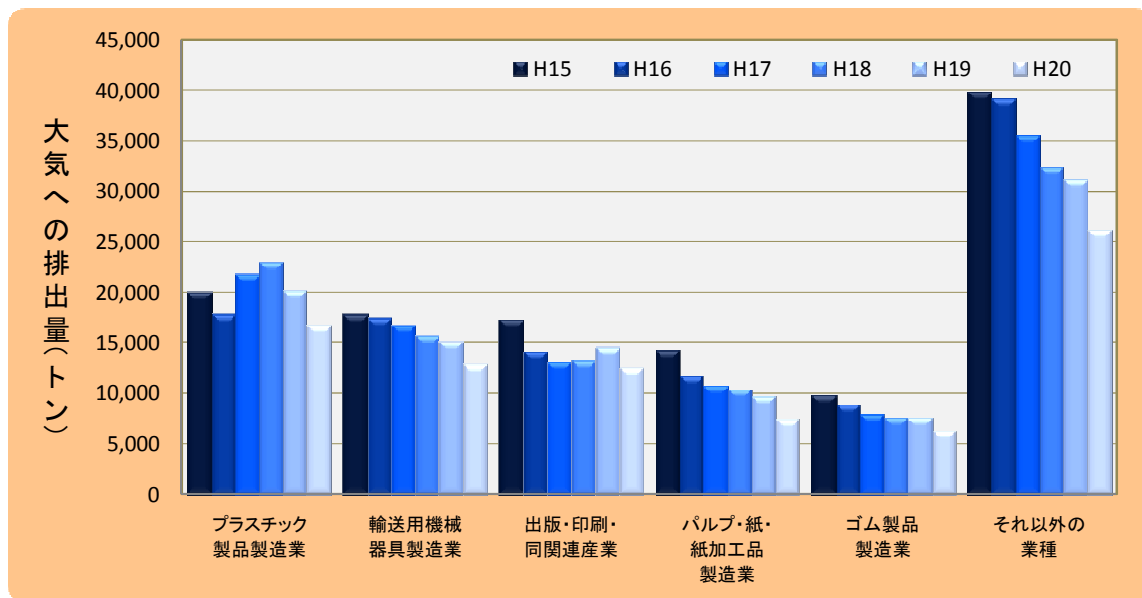


図10 トルエンの業種別大気への排出量の6年間の推移(上位5業種)

(2) キシレンの大気への排出量の推移

平成20年度のキシレンの大気への排出量は38,000トンで、6年間で10,000トン(▲21%)減少しています。

図11に平成20年度における大気への排出量上位5業種の6年間の推移を示します。平成20年度の上位5業種の合計は31,000トンで、大気への排出量合計の80%と高い割合を占めています。輸送用機械器具製造業が6年間を通して47~49%と非常に高い割合を占めているのが特徴で、2位の一般機械器具製造業の9~13%を大きく引き離しています。

上位5業種のうち、一般機械器具製造業以外の業種では減少傾向が見られ、輸送用機械器具製造業は6年間で4,700トン(▲20%)減少しています。特に平成20年度において大きく減少しており、平成15年度から平成19年度までは平均3.4%で減少しているのに対し、平成20年度は8.4%と大きく減少しています。

一方、一般機械器具製造業は平成19年度までは6.1%で増加していますが、平成20年度は平成19年度に比べて16%の減少となっています。平成15年度から平成19年度にかけて一般機械器具製造業の届出件数が60件(14%)増加し、大気への排出量も年々増加していましたが、平成20年度は届出件数の17件の減少とともに、大気への排出量も大幅に減少しています。

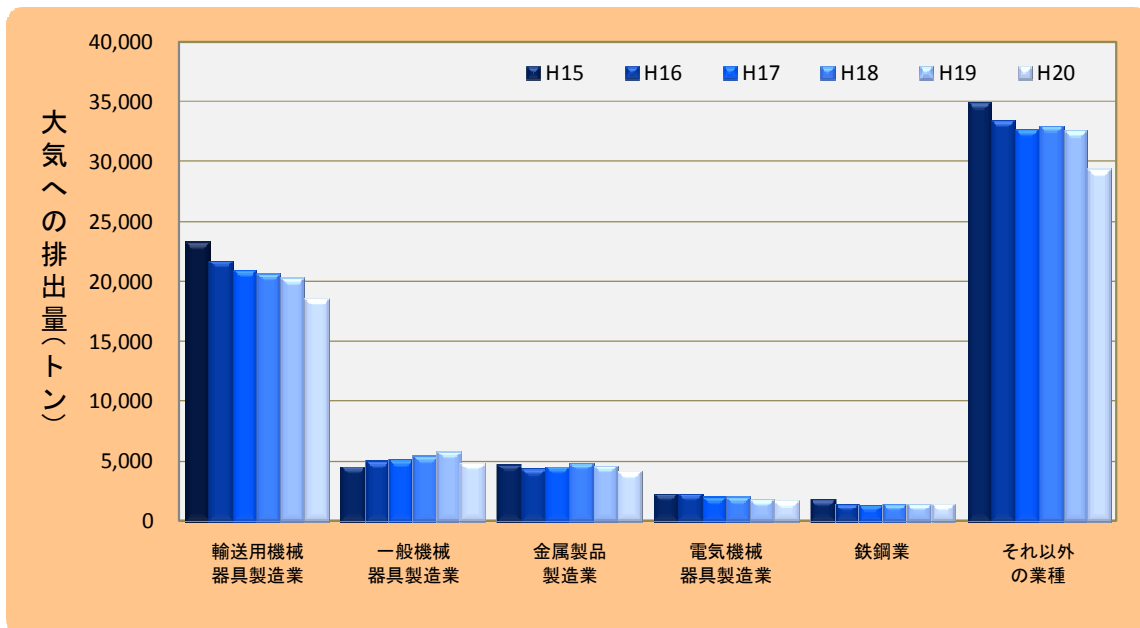


図11 キシレンの業種別大気への排出量の6年間の推移(上位5業種)

(3) 塩化メチレンの大気への排出量の推移

平成20年度の塩化メチレンの大気への排出量は15,000トンで、6年間で9,400トン(▲38%)減少しています。

図12に平成20年度における大気への排出量上位5業種の6年間の推移を示します。平成20年度の上位5業種の合計は11,000トンで、大気への排出量合計の69%を占めています。平成20年度の主要な上位業種は金属製品製造業(塩化メチレンの大気への排出量に占める割合19%)、プラスチック製品製造業(同15%)及び木材・木製品製造業(同13%)となっています。

上位5業種は6年間で減少する傾向が見られ、特に化学工業の2,200トン(▲54%)、輸送用機械器具製造業の1,300トン(▲46%)及び金属製品製造業の880トン(▲23%)の大幅な減少が目立っています。木材・木製品製造業以外の上位業種では平成20年において例年以上に減少しており、平成19年度と比べて化学工業は28%、輸送用機械器具製造業は17%、プラスチック製品製造業は15%の減少となっています。

塩化メチレンは様々な業種で洗浄剤等に使用されますが、木材・木製品製造業では主に木材の防腐処理における溶剤として使用されています。木材・木製品製造業では上位5事業所で塩化メチレンの大気への排出量の58%を占めており、年度間の変動はこれらの事業所に大きく依存しています。

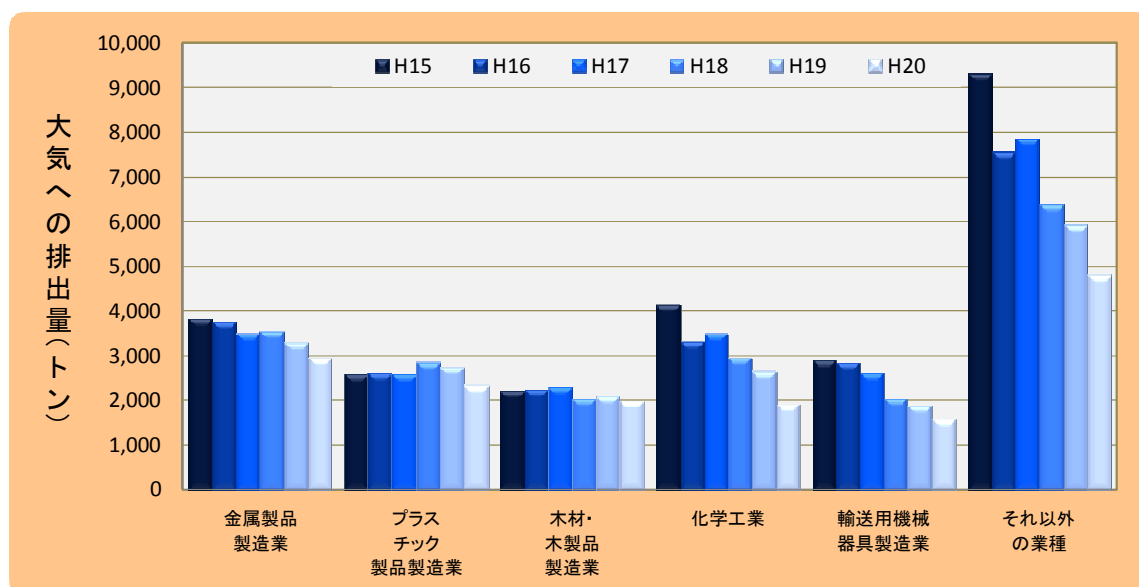


図12 塩化メチレンの業種別大気への排出量の6年間の推移(上位5業種)